2019年2月1日　アクセス　（1976年11月10日第三種郵便物認可）　第505号

地方小出版 情報誌 アクセス

毎月1回　1日発行
購読料　定価150円
（本体139円）
年間1,500円（税込み）
振替　00120-0-19017

発行所　㈱地方・小出版流通センター　〒162-0836　東京都新宿区南町20
編集　アクセス編集委員会　TEL.03-3260-0355　FAX.03-3235-6182

『旅する出島』の地方出版文化功労賞奨励賞を喜ぶ

文・長崎文献社専務取締役編集長／堀 憲昭

『旅する出島』という書籍が、第31回地方出版文化功労賞の奨励賞をいただいた。主催者の「ブックインとっとり　2018」発行の選評には、＜著者は長崎市の学芸員として発掘から復元に深くかかわっており、出島を様々な角度から広く知ってもらおうという「出島愛」にあふれている＞と書かれており、編集者としてニンマリとしたくなった。うまい表現である。評価していただいたことを素直に喜びたい。ここで、発行までの経過をご紹介してお礼に変えたい。

著者の山口美由紀さんは、現在も長崎市職員で出島に席をおく学芸員である。『ブラタモリ』というNHKの番組で、出島の発掘現場でタモリを案内して評判を呼んだから、ご存知の方も多かろう。彼女に「出島のことを本にして出しませんか」と持ち掛けたのは、かれこれ6年ほど前のことだった。当時、出島復元事業は課題山積で山口さんはその中心的存在で、原稿を集中して書き上げる時間がなかなかとれなかった。そこに助け舟を出したのがご主人の山口克己氏。「出島ゆかりの外国の町を取材しよう」と持ち掛け、山口さんの仕事漬けの日常からすこし「ゆとり」をとれる時間を、職場の承認のもと取り始めた。

【旅する出島　Nagasaki Dejima　1634－2016】山口美由紀著／長崎文献社刊／2016年10月発行／ISBNコード978-4-88851-267-1／税込価格2,160円

学術研究者からも高い評価

出島の研究者はその膨大なテーマの広がりにワクワクしながらも、出口を見つけるのに苦労している。山口夫妻の外国からの出島逆観察は、この本の全体構成に大いに役に立ち、学術研究者からも高い評価を得る内容となっている。編集サイドからの提案でB5判のムックスタイルのフルカラーにしたのも印象を高める効果をあげたのだろう。デザインワークを1冊まるごとデザイン事務所に依頼して、完全データで印刷に回したので、印刷入稿前にデザイナーとの間で、3度ほどのゲラのやり取りで校了にした。

『旅する出島』は2部構成になっている。「第1部　出島のつくり方」、「第2部　あこがれの出島」である。

ビジュアルなページ構成

第1部は「島をツクル」、「橋をツクル」、「街をツクル」、「庭をツクル」、「川をツクル」と章立てをわかりやすいテーマ設定にした。出島の成り立ちを著者山口さんの感性で、若い読者向けに編集したもので、従来の出島の歴史的分析を、島、橋、街、庭、川といったテーマに細分化し、解説に最新の研究成果をつぎこんだ。写真、画像も駆使してビジュアルなページ構成にして、文章中心の従来の書籍にはない、目で見る本に編集した。

日常生活の目線で女性らしい感性ゆたかな内容に

第2部は、著者の独自の視点がふんだんの発揮された展開が特徴で、海外取材の成果を盛り込んで「ワクワク感」満載の内容にしたてた。「おしゃれ出島」、「憧れの出島」、「混じりあう出島」、「おいしい出島」、「旅する出島」、「はいから出島」と、章立てのテーマからもわかるように、日常生活の目線で女性らしい感性ゆたかな内容になっている。

たとえば、「おしゃれ出島」の章では、更紗という織物を貿易品としての商品ではなく、赤い色や織り方の特徴などを細やかに分析している。インド更紗は出島から商品として日本に輸入されたわけだが、そこにはデザイン、素材といった利用者、購入者の日本の女性たちの視点から分析を加えた独特の切り口になっている。

食生活における出島の影響も江戸時代の日本人の生活に流行をもたらした。香辛料としての胡椒、シナモン、丁子(グローブ)などは、和食文化に衝撃を与えた。コーヒー、砂糖といった嗜好品も出島からもたらされ、食文化を大きく変化させていく。食文化を語る上で、食器は欠かせないが、本書でもおおきなページをさいて、工芸品としての陶器をとりあげている。出島から積み出された伊万里焼はよく知ら

れているが、著者は逆に出島から輸入された輸入陶器の生産地に足を運び、銅板転写の技法や、デザインの背景を丹念に紹介している。

出島からもたらされる異国文化は、まさに「驚きのワンダーランド」

出島が江戸時代を通じて、幕府管理の「鎖国の窓」となった背景には、こうした輸入品への日本人の「あこがれ」や「豊かさ」への渇望をうまくコントロールしたことだといえよう。

1634年に当時、長崎市中に散宿していたポルトガル人がキリスト教を広めることを懸念した徳川幕府が、人工島をつくって幽閉したのが出島の始まりであった。その後、ポルトガル人は追放され、オランダ人に出島での貿易を独占して幕末を迎える。その間、日本中から出島への視線が熱く注がれてきた。出島からもたらされる異国文化は、まさに「驚きのワンダーランド」だったのである。本書はその本質に迫った入門書として評価されたものだと考える。編集者にとって、これほどうれしいことはない。

長崎市の観光の目玉は、依然として出島を中心とした異文化交流の足跡をたどれる場所である。長崎市は出島に新たな橋を架けて、表門から観光客を入場できるようにして、大いににぎわっている。こうした見学者が、本書を手にして出島の深い歴史的価値を認識してくれることを願っている。

＊

（ホリ ケンショー／長崎文献社専務）

新刊ダイジェスト

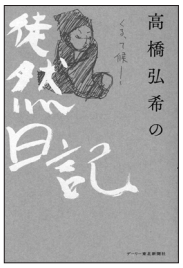
※価格は税込（消費税率８%）表示です。

『ＮＯ　ＮＵＫＥＳ　ビキニの海は忘れない』●岡村啓佐著

戦後史の闇の中に封印されているものの中に「ビキニ水爆実験」がある。米ソ冷戦構造の生みだしたアメリカの凶行は日本のマグロ船１０００隻（延べ）・乗組員１万数千人に死の灰を浴びせた。しかし、その被害は「第五福竜丸事件」として歪曲化され、操業の中心をなしていた高知県のマグロ漁船員たちの存在はおよそ知られることはなかった。高知県内の高校生サークルが被害者の生の声を聞き、実相を暴き出したのは１９５４年のビキニ水爆実験からおよそ４０年後。沈黙を強要されていた漁船員は静かに苦悩に満ちた表情で、恐怖を語りだす。本著はその言葉を日本文のみならず英文併記で世界へ届ける。ビキニ被害者の声が英文で発信されるのは初めて。死の灰を「雪だ」と丸めて食べた乗組員。若くして次々とがんの病魔に倒れる漁船員。収録５０人のダブルトーンで仕上げられた写真の表情は鬼気として「核なき世界の平和」を求め、私たち読者の心を震えさす。女優の吉永小百合さんが帯文にメッセージを寄せていることも付記したい。

◆ 2,160円・210mm × 270mm判・147頁・**自費出版（印刷、販売＝高知新聞総合印刷）**・高知・20181210刊・ISBN9784906910809

『高橋弘希の徒然日記』●高橋弘希著

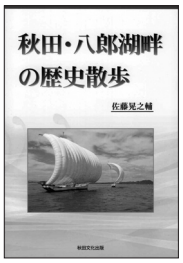


日本の三大随筆とは「枕草子」「方丈記」「徒然草」であり、数百年にわたって読み継がれているが、現代日本についに第四の傑作随筆が登場！　というと少々大げさではあるが、“法師”を自称する著者の語り口は滑らかだ。昨年「送り火」で芥川賞を受賞した十和田市出身の著者が地元紙に連載したエッセイに番外編を加えた本書。フルーツタルトにはまり、お気に入りの店に足繁く通う乙女な行動、低評価だったのに八戸で食してから一転絶賛する鯖寿司やイカ刺し、衝撃を受けた洋楽との出会いなど、静謐な小説世界とは異なる面も見せながら、郷土愛や紙の本の大切さも語る。

また、八戸での著者初の講演会の直前に“話すことを考えていない”と言って担当者を不安がらせながら、いざ登壇すると予備校講師だった経験を生かし、大いに会場を盛り上げたという水戸黄門的エピソードも痛快。題字、イラストも描く著者の過激でポップなエッセイ集。

◆１,５１２円・四六判・１０５頁・**デーリー東北新聞社**・青森・２０１８１２０２刊・ISBN9784907034191

『秋田・八郎湖畔の歴史散歩』●佐藤晃之輔著



人はそれぞれに何かを求めて見知らぬ場所へと旅をするが、そこが見知らぬ場所であってもあまり近い場所には興味を示さないのではないだろうか。秋田県南の農山村で生まれ育ち、県北大潟村に住み、県内各所をくまなく歩き、『秋田・消えた村の記録』をはじめとする10冊の本を記してきた著者にとって、八郎湖畔はまさしく「灯台もと暮らし」だったのであろう。この本では、八郎湖畔７市町村（男鹿市、潟上市、井川町、五城目町、八郎潟町、三種町、大潟村）を訪ねめぐって見つけたものを、４章立てで分かりやすくまとめている。八郎湖には十和田湖や田沢湖のような観光ポイントはないが、人里の中にある大きな湖ならではの歴史がある。広大な八郎潟干拓地、かつては島だったという男鹿半島の地勢を含めると、八郎湖畔はとても個性的な場所と言える。近くても見知らぬ場所にいけば旅が始まることを、この本は実感させてくれる。

◆ 1,620円・四六判・227頁・**秋田文化出版**・秋田・20181120刊・ISBN9784870225848

『廃村と過疎の風景１０　－廃校廃村を訪ねて２　甲信越東海』●浅原昭生著

本書は浅原氏の『廃村と過疎の風景』シリーズの記念すべき10作目だ。写真も多く、まるで自分が探索しているかのような感覚を提供してくれる。廃村（無住集落）を「おどろおどろしいもの」としてみる風潮があるなか、同氏の廃村への姿勢は一貫して中立的である。今や大学や研究所の研究者も同氏の書籍を頼りにしているという。

社会全体の趨勢が「拡大」から「縮小」に変わった瞬間、廃村（無住集落）は「時代の最先端」に躍り出た。多種多様、強烈な個性を放つ廃村たちは、農山村の未来を考えるための「ヒント」を与えてくれる。一例をあげるなら、長野県伊那市芝平が興味深い。旧住民の離村と新住民の田園回帰が同時に進む昨今、新旧住民が入れかわった芝平は「最先端の事例」とみることができる。暖かみのある記述と学術性が同居する本書は、廃村探索の初心者から、いわゆる研究者まで、あらゆる層に深い感銘を与えると確信している。

◆2,160円・B５判・143頁・**ＨＥＹＡＮＥＫＯ**・埼玉・20181231刊・ISBN9784990347505

『日中両国の学徒と兵士』●小林一美著

著者の故郷である長野県諏訪地方を中心とする反戦的左翼学生、中国で戦死した青年日本兵、多くの留日学生、日本陸海軍将校養成学校生徒らが十五年戦争時代、治安維持法下で味わった筆舌に尽くせない苦悩、悲劇を掘り起こした昭和史の物語である。諏訪地方では、東京女子大在学中に治安維持法で検挙され、思想で結ばれた夫の転向を知って発狂し、獄中死した伊藤千代子。短く壮絶な人生を多くの同時代者の証言によって描き出す。少年時代から詩歌に親しんだ軍医鈴木秀夫は、駐屯した中国南昌で日本に留学していた一女学生の日記帳と書簡を発見し、国家権力に翻弄された過酷な運命に打ちのめされる。密かに日本に持ち帰り、戦後翻訳して出版する。

こうした学徒や若き兵士ら数奇な運命と、その中でも発揮した大きな勇気を丹念に発掘し記録することで、新たな日中関係、人類、世界の未来への展望の糧にし、自由、民主、人権、平和の社会を築きたいと著者は述べる。

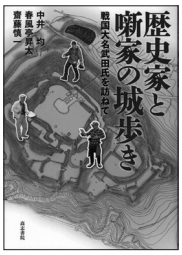
◆4,212円・A５判・510頁・**中国書店（集広舎）**・福岡・20181130刊・ISBN9784904213643

『京都の市電　昭和を歩く』●福田静二著

2015年に刊行された『京都の市電』が縮小版サイズで再登場しました。全国各地で路面電車が姿を消した1960~70年代に、京都からも市電は姿を消しています。本書は晩年の京都市電の姿を中心に、在りし日の写真を多く収録しています。八坂神社や東寺など多くの名のある寺社を背景にゆっくり走るのは、京都市電ならではといえるでしょう。祇園祭の日には山鉾の巡行を邪魔しないように区間運休もします。昭和51年に百万遍の停留所で撮られた白川女のいる朝の景色は、往年の京都の日常を想像させます。周りを囲む山々もよく見えるのは、まだあまり高い建物がなかったからでしょうか。廃止直前でも多くの利用者に愛されていた市電の姿をもう見ることが出来ないのが非常に残念です。今や写真の中に記録としてしか残っていない京都市電ですが、ハンディサイズに生まれ変わった本書片手にかつて市電が走っていた面影を探して、京都の街並みを散歩するのも楽しいかもしれませんね。

◆1,620円・A５判・191頁・**トンボ出版**・大阪・20181201刊・ISBN9784887162068

『歴史家と噺家の城歩き　－戦国大名武田氏を訪ねて』●中井　均・春風亭昇太・齋藤慎一著



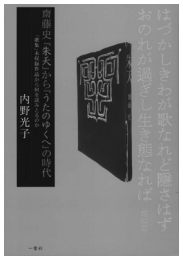
ここが馬出だ！　あそこに土塁がある！　草木の生い茂る山道、ときには藪の中をかき分けながら、郭が眼前に出現する。中世の山城を歩くのはさぞかし楽しいことだろう。でも、にわかファンの小生などが勇んで足を踏み込んでみても、縄張りどころか、竪堀と横堀との区別もつかないのが関の山。そんな素人諸君にも朗報。城歩きに関する素敵な本が出た。

中世城郭のエスキパートお二人と、城マニアで本まで出している有名落語家さんが、お城の現場に立って率直な意見を出し合いながら、城歩きの醍醐味を教えてくれる。従来の入門書の類にはなかった臨場感が味わえる。

何しろ、感動したり、疑問を呈したり、専門家が自ら手の内を明かしているようなもの。師匠が時たま鋭い意見を言って賛同を得たりするなど、専門分野の垣根を超え、純粋に城好き同志が集っている感が伝わってきて何とも微笑ましい。結論めいたところのないのも、城郭研究の現状を表しており、清々しい。

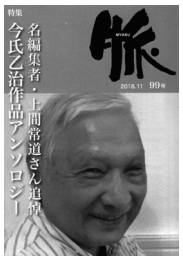
◆1,944円・A５判・154頁・**高志書院**・東京・20181210刊・ISBN9784862151872

『齋藤史「朱天」から「うたのゆくへ」の時代　－「歌集」未収録作品から何を読みとるのか』●内野光子著



「はづかしきわが歌なれど隠さはずおのれが過ぎし生き態なれば」（『齋藤史全歌集』より）
伝説的な女性歌人・齋藤史が、自身の『全歌集』の扉頁にまるで誇るかのようにあえて載せたこの有名な歌は果たして事実か？　齋藤史の高潔さと、歌人のあるべき姿の象徴のように語り継がれ、彼女の名を高らしめるのに大きく寄与してきたこの歌の背後に消えた真実とは？
齋藤史の知られざる全容――驚くほど数多くの隠蔽や削除、改作、多重寄稿の意図・意味、その過程をあらゆる角度から検証し、改ざんが大手を振って歩く危機的な今だからこそ、表現者としての当然の責任と道義、覚悟を問う！　膨大な原典や原資料に当たり、20年以上にも及ぶ著者の詳細な研究・分析から、これまで誰も見ることのできなかった齋藤史の実像に迫る渾身の書。「齋藤史著作年表」「齋藤史『歌集』未収録作品と『齋藤史全歌集』編集時の加除作品」「齋藤史関係雑誌3館所蔵リスト」等の120ページにも及ぶ貴重な資料付き。
◆3,240円・A5判・279頁・**一葉社**・東京・20190109刊・ISBN9784871960755

『脈　99号　特集：今氏乙治作品アンソロジー／名編集者・上間常道さん追悼』●比嘉加津夫編



2012年に亡くなった思想家・吉本隆明さんの読者にとって、「今氏乙治」の名は、吉本さんが少年期に通っていた私塾の教師として、そして多大な影響を吉本さんに与えた人物としてたいへん馴染み深いのではないだろうか。吉本さんの思春期前後の〈黄金時代〉を象徴する人であり、吉本さんが表現の世界に入るきっかけとなった人物と言える。その私塾には、戦後の代表的な詩誌『荒地』同人だった田村隆一さんや北村太郎さん等がいた。今氏氏は昭和20年3月10日の東京大空襲で家族とともに行方不明となった。吉本読者としては、その今氏乙治氏の詩や小説作品を読むことができる、ということに、まずとても感慨深いものがある。これらの作品群は、今回『解題 今氏乙治のことなど』を寄稿されている宿沢あぐりさんによって発行された『今氏乙治作品抄』（非売品とのこと）がベースになっているという。
今号ではもう一つ、2018年8月に亡くなった、『新沖縄文学』や『沖縄大百科事典』の名編集者、上間常道氏の追悼特集も組まれている。
◆1,404円・A5判・217頁・**脈発行所**・沖縄・20181120刊・ISBN9784907568894

地方小出版流通センター　ジャンル別 新刊案内

2018年12月1日～31日
流通センター着

※各ジャンル内での出版社名は所在地の北から南の順に並んでいます。

価格は税込（消費税率8%）表示です。

【雑誌】

◆**あおもり草子**　No.255　佐藤　史隆編　A4　48頁　600円　企画集団ぷりずむ［青森］978-4-503-21641-0　18/12
◆**SPRIDE**　vol.28　2019年1・2月号　渡辺　直明編　A4　112頁　972円　下野新聞社［栃木］978-4-88286-715-9　18/12
◆**GREEN REPORT**　468　2018年12月号　廣瀬　仁編　A4　192頁　2800円　地域環境ネット［埼玉］978-4-909864-00-0　18/12
◆**ほほづゑ**　第99号　長谷川　智恵子編　A5　127頁　600円　三好企画［千葉］978-4-908287-24-4　19/01
◆**子どもと読書**　433号　2019年1・2月号　親子読書地域文庫全国連絡会編　A5　40頁　550円　親子読書地域文庫全国連絡会［神奈川］978-4-907376-33-8　18/12
◆**書21**　No.65　澤田　博史編　A4　108頁　2160円　匠出版［神奈川］978-4-925212-73-1　18/12
◆**調査情報**　No.546　2019年1－2月号　岩城　浩幸編　257mm × 160mm　96頁　789円　TBSテレビ［東京］978-4-906908-75-2　19/01
◆**ヒニスム**　10　ヒニスム編集室編　A4　157頁　2400円　アクシス［東京］978-4-503-21648-9　18/12
◆**AXIS**　Vol.197　2019年2月号　石橋　勝利編　A4　136頁　1800円　アクシス［東京］978-4-503-21655-7　19/02
◆**民俗芸能研究**　第65号　民俗芸能学会編集委員会編　A5　113頁　1620円　岩田書院［東京］978-4-503-21640-3　18/09
◆**地方史研究**　第396号　地方史研究協議会編　A5　94頁　1234円　岩田書院［東京］978-4-87294-996-4　18/12
◆**仏事**　No.219　2018年12月号　奥村　昇編　A4　100頁　1620円　鎌倉新書［東京］978-4-503-21638-0　18/12
◆**仏事**　No.220　2019年1月号　奥村　昇編　A4　120頁　1620円　鎌倉新書［東京］

売行良好書

期間：2018年12月15日～2019年1月14日

［出荷センター扱い］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『図説・１７都県放射能測定マップ＋読み解き集』2,500円・みんなのデータサイト出版　(2)『よみきかせのきほん』810円・東京子ども図書館　(3)『ぼくは　なにいろの　ネコ？』1,404円・子ども文庫の会　(4)『バウムクーヘン』1,404円・ナナロク社　(5)『東京の森のカフェ』1,404円・書肆侃侃房　(6)『明恵　栂尾高山寺秘話　上』2,376円・弦書房　(7)『明恵　栂尾高山寺秘話　下』2,376円・弦書房　(8)『神田橋條治の精神科診察室』2,160円・ＩＡＰ出版　(9)『中学生のためのスイーツの教科書』972円・吉備人出版　(10)『子どもたちの心に届ける　自然・ことば・遊び』1,080円・木城えほんの郷　(11)『踏み絵とガリバー』2,052円・弦書房　(12)『東都寄席演芸家名鑑』2,000円・東京かわら版　(13)『全国もなかぼん』1,728円・書肆侃侃房

［三省堂書店神保町本店　センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『東京かわら版　１月号』600円・東京かわら版　(2)『東都寄席演芸家名鑑』2000円・東京かわら版　(3)『本の雑誌　４２８号』720円・本の雑誌社　(4)『おすすめ文庫王国２０１９』820円・本の雑誌社　(5)『そばですよ』1836円・本の雑誌社　(6)『パズル・ザ・ジャイアント　ｖｏｌ．３２』1404円・ニコリ　(7)『四国の中世城館』1404円・岩田書院　(8)『統合失調症と暮らす』2700円・ラグーナ出版　(9)『教養の場としての英文読解』2700円・ふみくら書房　(10)『信濃芋川一族』2160円・歴研

［ジュンク堂書店池袋店　地方出版社の本―センター扱い図書］ ※価格は税込（消費税率8%）表示です。

(1)『土佐寿司の本』2160円・飛鳥出版室　(2)『会津手語り　鍛冶屋編』3024円・歴史春秋社　(3)『島津日新公いろは歌』540円・高城書房　(4)『フチの伝えるこころ』2700円・寿郎社　(5)『ナガサキの郵便配達』874円・スーパーエディション　(6)『松浦武四郎入門』1080円・月兎舎　(7)『全国もなかぼん』1728円・書肆侃侃房　(8)『新訂　ジュニア版　琉球沖縄史』1,620円・編集工房東洋企画　(9)『危険な思想』1944円・無明舎出版　(10)『鳥取藩の御蔵所　事件簿』3780円・今井出版　(11)『走れ二十五万キロ　マラソンの父　金栗四三　復刻版』1620円・熊本日日新聞社　(12)『京都の市電　昭和を歩く』1620円・トンボ出版

以下ホームページ等でも各種情報提供を行なっております。ご利用ください。
ＵＲＬ：http://neil.chips.jp/chihosho/　　ツイッター公式アカウント：@local_small

トピックス ―― ★★★

▼当方取引出版社で、関西においてユニークな文芸出版を展開する**編集工房ノア**の涸沢純平社主が、前著**【遅れ時計の詩人　編集工房ノア著者追悼記】**の続編として**【やちまたの人】**(本体2,000円・ISBN978-4-89271-282-1）を出しました。2006年以降に亡くなった、関わりの深い詩人・作家らへの哀悼の思いを綴ったものです。本書のなかに、12年前の梓会出版文化賞を編集工房ノアが受賞した前後の旅の模様も描かれています。受賞式会場に来ていた、元・未来社の名編集者にして、退職後は影書房を設立し出版活動を続けられてきた、松本昌次さんのことが書かれています。初対面だったようですが、富士正晴さんの本を出している出版人仲間として親しく声をかけていただいたそうです。松本さんは、今年の梓会出版文化賞表彰式前日の1月15日に91歳で亡くなられました。当方とも長いおつき合いで、仕事について応援もしていただきました。ご冥福をお祈りいたします。当方扱いの**一葉社**から**【戦後文学と編集者】**(本体2,000円)をはじめとして３冊の松本さんの著作が出ています。

▼その、今年の梓会出版文化賞ですが、新聞社学芸文化賞特別賞に選ばれた沖縄の**ボーダーインク**さんへの「選考のことば」を紹介いたします。

「こちらは言うのもベタですが、得意技は『地元力』です。沖縄の年中行事で使われる道具や供え物について解説した稲福政斉さんの**【御願の道具と供えもの事典】**、沖縄考古学会が近年の成果をまとめた**【南島考古入門－掘り出された沖縄の歴史・文化】**…。そして多くの選考委員が注目したのは沖縄にルーツを持つノンフィクション作家・与那原恵さんのエッセー集**【帰る家もなく】**でした。地元力とは地霊の声を呼び起こす力なのかもしれません。」

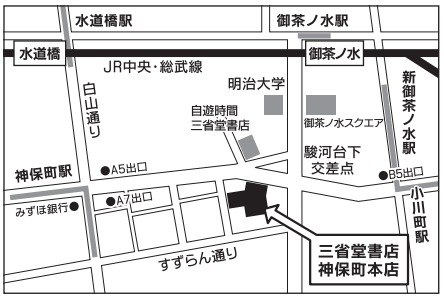
郵便販売のご注文方法

◎お名前、お届け先（郵便番号、住所）、連絡先お電話番号、ご注文品の書誌名、冊数の必要事項を明記のうえ、下記までＦＡＸでご連絡ください。
◎送料は、冊子小包・メール便共実費でお送りさせて頂きます。

★地方・小出版流通センター
ＦＡＸ：０３－３２３５－６１８２

地方・小出版物のデータになります。綴じて保存してください。

BOOKS SANSEIDO
三省堂書店
営業のごあんない

神保町本店 ４階
地方出版・小出版物フロア
営業時間　10：00 AM ～ 8：00 PM
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-1
TEL. 03-3233-3312(代)
URL. http://www.books-sanseido.co.jp

本店4階売場では、地方・小出版流通センター扱いの新刊全点のほか、地域別に書籍を取り揃えております。また、地域ならではのタウン誌、趣味の雑誌も扱っております。